

# 太田全斎

おおた・ぜんさい

漢学者、福山藩年寄格

## 経歴

生: 宝暦9年(1759年)、江戸福山藩邸生まれ

没: 文政12年(1829年)6月12日、享年71歳、芝永平寺内威徳院に葬る

—	—	山本北山に漢学を学ぶ
安永4年(1775年)	17歳	初めて藩主阿部正倫公に謁する
—	—	阿部正精公の近習となる
天明6年(1786年)	28歳	家督を継ぐ
天明8年(1788年)	30歳	正倫公より弘道館文学教授に任ぜらる
天明8年(1788年)	30歳	御講釈並びに御家中学問世話
—	—	世子の小姓頭
—	—	御側用役
—	—	御側用人
文化5年(1808年) 閏6月8日	50歳	『韓非子翼叢』を完成
文化12年(1815年)	57歳	『漢呉音図』を完成
文化14年(1817年)	59歳	年寄格に進められる
文政6年(1823年) 正月27日	65歳	致仕、家督を養子の藤七郎に譲り隠居し江戸に住む

## 生い立ちと学業、業績

太田全斎、諱は方・経方、通称八郎、字を叔亀といい、全斎はその号である。宝暦9年(1759年)江戸福山藩邸に生まれた。福山藩士太田藤蔵の四子。

漢学の師は山本北山(1752年～1812年)であり、同門に太田錦城・小川泰山・近藤正斎(重蔵、北方探検家)らがいて交わりを結んだ。従って学統としては折衷学派に属する。

天明8年(1788年)、阿部正倫により文学教授に任ぜられた。阿部正精の代に、側用役勝手掛から年寄に進められ、前後36年の勤務の後、文政6年(1823年)正月27日致仕(65歳)、

その後ももっぱら江戸に住み、文政12年(1829年)6月12日没した。享年71歳。芝永平寺内威徳院に葬る。

全齋は篤学で、よく諸子の学に通じていたが、多くの著作の内もっとも著名なのは『韓非子翼毳(20巻)』であり、韓非子註解書中の白眉といわれている。また文化12年(1815年)刊行の『漢呉音図(3巻)』があり、これによって当時、音韻学の泰斗とされた。

そのほか『呂氏春秋折諸(りよし・しゅんじゅう・せつしよ)(10巻)』、『墨子考要(4巻)』、『古今諺叢(32巻)』など、木版活字による貴重本が遺されている。(出典1～6)

### 誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
00242	太田全齋 著	『韓非子翼毳(20巻)』	—	文化5年 (1808年)
00243	太田全齋 著	『漢呉音図(3巻)』	—	文化12年 (1815年)
00244	太田全齋 著	『諺苑(げんえん)』	養徳社	昭和19年 (1944年)
03220	妹尾啓司 著	『太田全齋伝』	広島県福山誠之館高等学校	昭和30年 (1955年)ごろ
03054	村上正名著	『備後人物風土記—歴史をつくった人々—』	歴史図書社	昭和52年 (1977年)
04830	北村孝一 著	『青淵(平成24年7月号)』 「ことわざ・俗語研究の先駆者—太田全齋と『俚言集覧』」	渋沢栄一記念財団	平成24年 (2012年)

出典1:『誠之館記念館所蔵品図録』、71頁、福山誠之館同窓会編刊、平成5年5月23日

出典2:『太田全齋伝』、妹尾啓司著、広島県福山誠之館高等学校刊、昭和30年ごろ

出典3:『今昔物語 福山の歴史(上巻)』、203頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和53年11月20日

出典4:『備後人物風土記—歴史をつくった人々—』、248頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和52年10月31日

出典5:『福山の今昔』、157頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

出典6:『青淵(平成24年7月号)』、18頁、「ことわざ・俗語研究の先駆者—太田全齋と『俚言集覧』」、北村孝一著、渋沢栄一記念財団編刊、平成24年7月1日

2005年3月24日更新:所蔵品・出典●2006年1月11日更新:経歴・本文・所蔵品・出典●2006年6月16日更新:タイトル・所蔵品●2007年3月27日更新:所蔵品●2008年2月6日更新:経歴・本文●2008年11月14日更新:本文・その他の著書・出典●2008年11月17日更新:誠之館所蔵品●2008年11月26日更新:経歴・誠之館所蔵品・出典●2010年3月19日更新:誠之館所蔵品・著書→探しています●2014年3月15日更新:誠之館所蔵品・探しています・出典●